

CHUDEN 教材バンク

活用マニュアル

BY AEEN

この「英語教材バンク」は、平成16年度・17年度と旭川小学校英語教育ネットワーク(AEEN)が、**ちゅうでん教育振興財団**より「**英語に携わる教師の輪を広げよう**」という活動テーマのもと、助成頂いた助成金をもとにつくりあげたものです。

ワークショップで使用したり、紹介したりした教材を共有財産として活用し、会員のみならず、広く試用していただくことを願いながらこの度「活用マニュアル」を作成しました。

教材バンクと呼ぶには、まだまだ充分とは言えませんが、少しずつ内容を充実させていきたいと考えています。

ご活用願います。

AEEN 研究部

1. 活用マニュアルの利用にあたって

現在，AEEN では，16種類の教材を保管しております。（平成17年12月現在）

今年度残り2回のワークショップで使用するものを含めると19種類になる予定です。

この「活用マニュアル」は，今後，教材がある程度蓄積された段階で増補版を出し，常に，リニューアルしていきたいと考えています。

今回マニュアル化する教材の分類をしますと，

音声教材	(7点)
映像教材	(3点)
カード等の教具	(4点)
書籍教材	(4点)
その他	(1点)

となります。今回はさしあたり，保管する教材の紹介を主な目的としております。詳細な説明等で不十分な点は，事務局までお問い合わせ願います。

保管・貸し出し等に関しましては，AEEN 統括コーディネーター・小山 俊英（旭川市立日章小学校教諭）を窓口としておりますので，使用方法も含めてお問い合わせください。

貸し出し期間に関わっては，1ヶ月を原則としておりますが，柔軟に対応できますので，お問い合わせください。

小学校英語活動に関わる教材は，大変高価なものが多く，また，市販されていないものも多くあります。まずは，一度使ってみて（試してみてください），それから購入するというのも効果的な方法の一つではないかと思えます。ただ，継続して使用していただくための教材バンクではありません。あくまでも，試用という目的であることをご理解いただきたいと思います。

ご活用をお願いいたします。

Asahikawa English Education Network

代 表 丸 山 健 二
統括コーディネーター 小 山 俊 英
研 究 部
(文 責 : 小 山 俊 英)

音声教材編

PAM & TED (1)

By 松香フォニックス

これまでもA E E Nワークショップで紹介をしてきましたが、Warm-up にうってつけの教材です。旭川市内のA L Tの何人かが自費で購入し、中学校で使っているということです。これは、音声教材の他に「Picture」がついています。最初は、C Dを少しずつ繰り返し聞かせながら、補助資料として「Picture」を子供たちに見せます。

この絵を見ることで、どのようなことを言っているのか、すぐ理解できます。(日本語でサポートする必要はありません) チャンツの心地よいリズムに乗って、短いフレーズを繰り返すことで、あっという間に30フレーズが身に付きます。

短時間(5~10分程度)ですむというメリット共に、(2)(3)のやや難易度の高いレベルもあります。何日間か集中して実施することが大切です。また、子供たちにある程度定着した段階でPictureをgesture(動作)に変えて行うことも可能です。

『楽しく身に付く』という点では、トップランクの教材であると考えます。

F.I.A. Rhythm Training

By F.I.A (Just for kids)

これは、上記のPAM & TEDが軌道に乗り始めた頃に、平行して使っていくと効果があります。これも何種類かのチャンツをくみあわせて編集してあることから、子供たちにとっては、非常に楽しくしかもノリのよい英語活動を楽しむことができます。

この教材の優れたところは「語彙」がカテゴリー別になっている(Sports, Foods, Kitchen etc.)ことから、通常の英語活動に取り込むことが楽にできます。

しかし、後半になると低学年では難しいと思われるSentencesが出てきます。高学年であっても英語特有のリズムとイントネーション(アクセント)を大事にするという意味では、A L Tとのチームティーチングの時に取り入れると有効であると思います。

Six Dinner Sid

By Moore (Prentice Hall)

= アプリコット

これは、「American English」のストーリー・カセットです。使用学年は、高学年が良いのではないのでしょうか。Warm-upの後に(あるいはWarm-upの一環として)ストーリーブックの読み聞かせを位置付けることは大変効果があるという報告がなされています。

Olenka Bilash 博士も何らかの形で「ストーリー」の取り入れを勧めています。3年生に絵本を用いた「story telling」を行った経験がありますが、日本語を全く使わなくても、3～4回目には、ほとんど内容を理解し、質問に答えることができました。このカセットでは、B面に「Question」が入っているところが面白い構成です。

場面ごとの簡単な Chart (絵) を用意すれば、新ジャンルとして英語活動に位置付けて行くことが可能であると思われます

The Dinosaur's Egg

By Butler & Biro (Prentice Hall)

= アプリコット

上記と同じ「American English」シリーズです。こちらの方が、ストーリーも単純で、楽しい内容であることから、高学年のリスニングには適しているかと思えます。いずれにしてもこのシリーズを活用するためには、何らかの「Visual」教具 (= Chart 等) が不可欠ではないかと思えます。

Jazz Chant ~Fairy Tales~

By Carolyn Graham

(Oxford American English)

= アプリコット

この教材は、英語の持つ特有の「リズム」や「イントネーション」を Jazz Chant を使って効果的に学ぶことができるように構成されています。

また、子供たちがよく知っているストーリーということもあり、知らず知らずのうちに子供たちは英語の世界に浸っていきます。これは、短い時間でくり返し聴く 全
部言えるようにすることを求めず、その時間に1～2のフレーズに絞って練習する という方法をとることによって、どの学年にも活用することができます。

内容の理解を求めるのではなく、英語の音を五感で感じるための教材です。

また、Jazz chant のバリエーションも知ることができました。

New Let's sing together

By アプリコット

AEEN ワークショップで最も活躍しているCDです。アメリカやイギリスの子供たちが良く歌う歌を上手に編集しています。CDですから頭出しが簡単なことから、自分で購入して活用されている方も何人かいます。

このCDには、ソングブック（別売）もあります。

Song は、「英語活動ですよ〜。」と力まずに、朝や給食時間にくり返しかける（毎日だと子供たちが飽きてしまいますので、曜日を定めるなど工夫が必要です）ことで、自然に子供たちが口ずさむようになってきます。

また、英語活動の Warm-up に最適な曲がたくさん集録されています。

「さあ何を歌おうか・・・」と考えている先生は、まず一度聴いてみて下さい。どこかで耳にしたことのある心地よい歌が流れてきます。

学年にふさわしい歌がわからないという方は、ご連絡をください。

低・中・高学年別の「Song List」を紹介します。

Listening Check (1 級 ~ 3 級)

By J A P E C (日本児童英語振興協会)

これは、18年3月のワークショップで紹介する(した)教材です。小学校に英語活動が何らかの形で導入されたときに、「文字指導」をどのように取り扱うのかと言うことが指導をする際に大きなポイントになります。

また、中学校の連携を考えたときに、「Listening」は、単に聴くだけで良いのか？「Speaking」に繋がるだけで良いのか？という考え方と「Listening」は、「文字」と関連させて指導することでトータルな英語力の向上に繋がるのではないのか？という考え方が綱引きを始めるのではないのでしょうか。

それは、今後の文科省の方針に委ねるとして、この教材は、「文字」と音声を繋ぐというどちらかという「中学英語」的な発想から編集されています。

ただ、1 級 ~ 6 級までのグレード(レベル)別の編集になっていること

(予算の関係で3 級までしか購入できませんでしたが・・・)

今後の小学校英語がどのような方向に進んでも対応ができる教材の確保という二つのねらいから購入しました。

児童英検と非常に似た側面を持っていますが、私たち AEEN も今後多岐にわたる研究を進めていかなければならないこともあり、一度手にとってご覧いただければと思います。

映像教材編

指導者のための Phonics(1)

By 松香フォニックス

現在では、「文字指導」は、小学校英語活動の中に入ってきてはいませんが、近い将来、

英語が必修化あるいは教科となったときに、「文字指導」は避けて通ることができません。従来通り、Reading を指導する際に、A (エイ) B (ビー) C・・・と読ませることで、子供たちに Total な英語力を身に付けさせることができるのでしょうか？

Phonics は、アメリカ合衆国やイギリスにおいて、幼児や小学校低学年の子供たちに対して、圧倒的に多くの家庭や小学校で取り上げられている指導方法です。

まずは、先生方が Phonics に触れてみてはどうでしょうか？この教材は、指導者のための Phonics の入門ビデオです。ただ、Phonics は、学校全体の共通理解の元で取り上げなければ効果がありません。逆に子供たちが混乱を起こしてしまいます。その意味からも、研修の時間等に先生方みなでご覧になることをおすすめします。

マザーグース (1 ~ 3)

By アプリコット

低学年 (1 ~ 3 年) 向き。英語活動の導入に最適なビデオ。アニメや外国の風景などを背景に、短い単語や文が繰り返し流れてきます。なかでも標題の通り、Rhyme (韻をふんだ詩や歌など) や耳なじみのあるマザーグースの歌が数多く出てきます。

1 回に 10 分ぐらいずつ、小刻みに見せていくと子供たちの「英語耳」が鍛えられることでしょう。(特に低学年では、あまり長くないように見せることが大切です)

「メリーさんの羊」「ロンドンばし」など、1 年生に見せたときには、どの子も一緒に口や体を動かしながら、上手にまねをしていました。教室で行うよりも、フリースペースのような広い場所でゆったりと動くことのできる場所で英語活動を行うといいでしょう。

ビデオでフォニックス

By 松香フォニックス

こちらは、子ども向けフォニックス指導用ビデオです。何年生から見せるのが適当かは一概には言えません。どのくらい繰り返し見せることができるかが一番のポイントです。つまり、年齢が下がれば下がるほど、繰り返す頻度を多くする必要があります。

私事ですが、私 (= 小山) の息子に、このビデオを 5 才前から見せていました。すり切れるほどみたようです。現在 3 年生ですが、特殊なものを除いて「読むこと」はほとんどパーフェクトです。(意味は、わかっていません。)フォニックスとは、教えると言うより、繰り返し触れることで身に付くという性格のものなのかも知れません。

ある先生は、給食時間、静かな音楽を小さな音で流しながら、このビデオを流している(見なさいという指示はしていないそうです。ただ、興味のある子どもは食いついてくるそうです)とのこと。この効果がどう現れてくるのかとても楽しみです。

できるならば、先の指導者用のフォニックスビデオを先生方が観た後に使用するようになれば、子どもから質問があったとき、即座に対応できるでしょう。

カード等の教具編

サウンド・アニマル

By ジャスト・フォー・キッズ

この教材は、低学年しかも英語活動を始めたばかりの頃にふさわしいものです。サウンドは、テープに120種類の動物の鳴き声が入っています。9種類の動物の写真があり、音を聞いてその動物の上にプラスチックチップをのせた子どもが勝ちとなるエキサイティングなゲームです。英語活動では、その動物のうち30種類程度は、子供たちにとって身近な動物であることから、このゲームの次に、動物の英語の発音を教え、鳴き声を聞いてから、子供たちが一緒に英語で動物の名前を発音するというアクティビティを構成することで、活動を発展させることができます。

また、どの動物を取り上げるかは、子どもと話し合っ、て、言いたい(使いたい)言語材料を選択することができますので、使い方次第では、バリエーションを多く創作することができます。

絵あわせロット

By ジャスト・フォー・キッズ

これも上記の教材同様のゲームですが、中・高学年向きであると思います。しかも、どちらかというと「Using it」のレベルに近いので、楽しく遊びながら英語を身に付けていくことができます。(少し手間はかかりますが、これと同様のアクティビティは、多くの書籍で紹介されていますので、作成することも簡単にできます。)この教材では、日常よく使う英単語が9個ずつ4グループになって紹介されています。計36個の英単語をまずINPUTします。

Basicなアクティビティの進め方は、4人一組で、山にした絵カードを上から順に1枚ずつ表にします。もし、自分のプレイボードにその表にした絵カードがあれば、それを発音します。

正しく発音できたときは、それを自分のプレイボードにのせていきます。

全ての絵カードが自分のプレイボードにのったときに、その人が勝ちとなります。

Domino

By LADYBIRD: J. W. Spear & Sons PLC (=育伸社)

誰でも知っている「ドミノ」です。カードを同じ絵同士をくっつけながら、どんどん広

げていきます。何人でもできますから、英語活動の後半に、グループ（5～6人）で行うと、「Using it」の段階に限りなく近くなると思われます。ただ、注意することは、必ずカードをセットするときには、「発音する」ことを徹底する必要があります。ゲームに夢中になると、ただ置くだけになり英語活動の目的が達成できずにゲームを終えてしまうこともあります。この点に留意して活用下さい。

さてこのシリーズは、「day to day」と「spell a word」の2種類を3セット用意してあります。どちらも日常良く使用する言葉で編集してありますので、学年関係なく該当する言語材料のカテゴリーを学習したときに活用できます。

おまけに・・・

この教材を使った後に、これを参考にして「自作ドミノ」を作成することができます。私はあくまでもこの教材は、「ああドミノというのは、こういうカードで、この様にしてゲームを進めるのか」ということを知るためのもので、ドミノに言語材料をあわせない限り、この教材を完璧に使いこなすことはできません。

ですから発想を転換して、自分の学級で行った英語活動の言語材料をもとにドミノを作成することをお勧めします。そうすれば、最も使い勝手のいい「ドミノ」が完成します。

Alphabet Match

By LADYBIRD : J . W Spear & Sons PLC (= 育伸社)

これは、上で説明した「DOMINO」と同じ出版社が出しているものです。

使い方は、「ドミノ」と同じですが、上記の「DOMINO」が絵カードであるのに対してこの教材は、「アルファベット」です。

その分、ゲームの進め方は、単純に上記のドミノのようにするゲームから、「ブラインドゲーム」（順番に並べて、その中の何枚かを伏せておいて、それが何かを言わせるゲーム）などゲームのバリエーションだけでも20種類以上紹介されています。

これも上記ドミノ同様、自作が可能です。しかしカードには、色遣いの工夫だけではなく、ちょっとしたアイデアが色々と盛り込まれています。そのため、実物を一度見てから、そのノウハウを十分知った上で、自作にかかるといいのではないのでしょうか。

私は、高学年では、「Matching game」（内容の詳細はお問い合わせください）を中学年では「Guess It」（内容の詳細はお問い合わせください）などをよく行います。

いずれもオリジナルのゲームです。このように、カード類は紹介されたゲームだけではなく、指導者のアイデアで様々な活用が可能です。

どうぞ一度トライしてみてください。

書籍教材編

これからの小学校英語教育 理論と実践

By 研究社

現在、小学校英語教育に関する本は、書店の教育書の一角を占めるほど多く出版されています。しかし本音で言わせて頂くと、どれも一長一短で、一冊で自分の求めているものを満たしてくれる本はこれまでなかなかありませんでした。カリキュラムやアクティビティは充実してはいるものの、言語理論の背景や指導方法等については、多く語られることはなかなかありませんでした。

この書籍は、日本で小学校英語に早い時期から目を向け、全国的な規模でワークショップを開催してきた J A S T E C (日本児童英語教育学会) が責任編集を行ったもので、実践の質は群を抜いています。

私たち AEEN では、この書籍をまずは会員の「輪読会」用「書籍教材」として、6冊購入しました。そのため、貸し出しは、平成18年3月以降となりますのでご了承ください。

理論から実践まで網羅されているだけでなく、これから英語活動が必修化となったとき、どのように対応するかという点についてもアイデアが豊富に掲載されています。

AEEN 統括コーディネーターの小山先生が、英語活動の発展という視点から、「国際交流活動をどのように進めるか」(第9章・第3節)を執筆されています。

Step Bulletin

By 日本英語検定協会

英語活動を校内研究や個人研究の対象にしようと考えている時には、まずこの本を一読することをおすすめします。

日本最先端の英語教育の研究がどこに視点をあてて進められているのかが一目でわかります。ちなみに No.16 には、北海道の小学校では初めて研究助成を受けた旭川市立日章小学校(=小山先生執筆)の共同研究「B-SLIMを導入した英語活動」が全文掲載されています。

AEEN がワークショップで再三取り上げている『B-SLIM』の全体像がよくわかる構成になっています。新しい視点に立った研究が様々な角度から提案されています。

AEEN 事務局に8冊準備してありますので、活用下さい。

子どもが生き生き動く英語活動の進め方

By 教育出版

この書籍は、今から約2年前に出版されたものですが、「英語活動の目的」から始まり、最終章の「中学校との連携」に至るまで、現在の学習指導要領の考え方に基づいて、たいへん丁寧にわかりやすく書かれてあります。また、実践を中核に据えた編集になっているために、現場では非常に参考になると言う声が上がっています。

また、教材開発に多くのページを割き、教材とアクティビティーとを効果的に結びつけた内容がたいへん優れているところであると思います。

年間指導計画については、実際の作成段階で配慮しなければならない事項をきめ細かく取り上げています。さらに、『調べ学習』の実際(AEEN 統括コーディネーターの小山先生が執筆)ということで、小山先生が開発した『英語活動における調べ学習』を詳しく知ることができます。

3冊準備してあります。研修等の際に活用すると効果的です。

ハロー・イングリッシュ

By 北海道立教育研究所

これは、「B-SLIM」のバイブルと称される書籍ですが、北海道内の各小学校1冊のみの配布と言うことで、なかなか活用されていないという実情があるようです。北海道立教育研究所からダウンロードする方法もありますが、なかなか時間もかかり大変という声も聞いています。

現在10冊確保してあります。(小山先生が執筆者贈呈分を寄贈してくれました)

英語活動を開始するという学校には、長期貸し出しも可能ですので、お問い合わせください。

また、九州の教育研究所が出版した「エンジョイ・イングリッシュ」という書籍も現在ダウンロードが可能です。「ハローイングリッシュ」と構成は似ていますが、B-SLIMのような指導方法に基づく編集とはなっていない分だけ、非常に一般的な英語指導の手引きとなっています。機会がありましたら、ご覧ください。

(事務局にもダウンロード版が1冊あります・必要であればお貸しします)

その他

平成 16/17 年度出版の「小学校英語活動」テキストブック

英語活動が小学校に導入されたときに、テキストブックはどのようになるのでしょうか？という質問を良く聞きます。現在、多くの実践校であっても特定のテキストを持たせて英語活動を行っているというところは少ないようです。

しかし、必修化となれば、現在の道徳と同じように「副読本」的な取り扱いでテキストブックが必要になるかも知れません。（もちろん必修化となっても、テキストなしで進めていくことも十分可能です）

各教科書出版社では、「小学校英語活動用テキスト」を出版しています。特に大手と言われているところは、軒並み特色あるテキストを作成しています。

三省堂・教育出版・開隆堂・東京書籍・光村出版……。AEEN のワークショップでも何度か展示してきましたが、この度「教材バンク」を作成するにあたり、小山先生が個人で集めた教科書類を全て寄贈いただきました。

この本を寄せ集めて、英語活動を構成することも十分可能です。膨大な量になりますが、一度ゆっくりご覧いただきたいと思います。